

L I T T L E B I G

第42号 2009.10.7

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

kodomo@library.fks.ed.jp

http://www.library.fks.ed.jp

【 Pieces - かけらたち - 】 本の中の言葉

「努力してきれいになれるもののな」とコーモリがいった。皮肉ではないようだった。心の底から不思議におもったのだろう。

「そうよ。ユウキ。女は努力してきれいになるの。お母さん、すごく努力したんだから」

「男は」とコーモリは二十歳の顔を横目で見つつ、いった。「どうすればかっこよくなれるの」

「苦労よ」

母の答えにコーモリはきょとんとした。

『幸福ロケット』(山本幸久/著 ポプラ社 2005.11 189 頁より) 913/ヤコ

「でも、セレブってよく言うじゃない。雰囲気よ、セレブっていうイメージ」

「わたし、そういうムーディーなの嫌い。そういう言葉の暴力って言うの」

「暴力、どうしてよー」

「ものごとをそう簡単にカテゴライズするのは危険なことなの。思考停止、没個性、個人無視、つまりファシズムへの暴走」

『過去からの手紙』(岸田るり子/作 理論社 2008.2 76 頁より) 913/キル

「磯山さん……」

振り返って見た、彼女の表情が、なんか、とても切なく見えて、私はそれ以上、何も言えなくなった。

「嫌なんだよ……お前が……あたしが、本気で負けたと思ったお前が、実は弱かったなんて……あたし、そんなふうには、思いたくないんだ……」

『武士道シックスティーン』(菅田哲也/著 文芸春秋 2007.7 139 頁より) 913/ホテ

旅【travel】

思いつき観光地を巡る旅も良いですが、自分だけの楽しみがあるのも旅の良いところ。

「富獄百景」(※1)は、作家・太宰治が富士の麓で富士と向き合った日々のことを書いた作品。「なにもそこまで…」と思うほど富士について真剣に考える太宰が、おかしくもありうらやましくもあります。

「川の話」(※2)は題名の通り川について書かれたもの。1955年が初出の作品ながら、川の表情やこだわりについて語るその語り口は「萌え」を語る現代の「オタク」に通ずる熱さがある…と言ったら語弊があるでしょうか。しかし、今まで川に興味もなかった私が、読後無性に川に行きたくなったのは事実です。

一方、『川を旅する』(※3)は「川のソムリエ」といった感じででしょうか。川、そして川沿いの町の風土、人間模様などをさわやかに届けてくれるエッセイです。

以上3者の「旅」、こだわりがあって面白いです。みなさんも自分だけの「旅の目的」を持って、旅に出かけてみませんか？

(※1)『走れメロス 富獄百景』(太宰治/作 岩波書店 2002.3)所収

(※2)『天平の躰』(井上靖/著 金の星社 日本の文学 18 1976.3)所収

(※3)『川を旅する』(池内紀/著 筑摩書房 2007.7)

ナメから本を読む

このコーナーでは、テーマに合わせて本のちょっと変わった読み方をご紹介します。

テーマその② 本で旅する

「本を読むと世界中を旅できる…」などによく言います。確かに、本の舞台は日本・外国・はたまた想像の世界など様々。読んでいるだけでそこに行った気分にもなれますよね。

でも、それなら誰にだって出来ること。ここでは、もう少し視野を広げて本の世界を旅する方法をご紹介します。

まず有効なのは地図帳。本の舞台となった土地を地図で探してみましょう。地図を見ると、周囲の地形や景観まで想像できるので、イメージも膨らみます。特に道路地図はお店やバスの経路まで詳しく書いてあるので、一度手にとってみるとやみつきになるかも！？本の中に具体的な地名等が書いてない時でも、作者が自分の出身地をイメージして書く場合が多々あるので、著者プロフィールに目を通すと舞台のヒントが得られるかも。

また、作者が取材をもとに書いた場合、最後に「謝辞」というのが書かれている場合があります。例えば『武士道シックスティーン』（菅田哲也/著 文芸春秋 2007.7）の謝辞には「桐蔭学園女子剣道部」の名がありますが、つまりこれは主人公たちの通う学校を想像する時に桐蔭高校を念頭に置けば作者のイメージと近くなる(かもしれない)ということを示しているわけです。

この様に、本の中にはイメージを膨らませるためのヒントが隠れています。

イメージじゃ足りなくて実際に小説の舞台を訪れてみるのも良いですが、その際はくれぐれも地元の方の迷惑にならないように気を付けてくださいね。

例えば、こんな本はどうでしょう…

書名	著者名	出版社	場所
『ボクシング・デイ』	檜崎 茜/著	講談社	長野県下諏訪
『太平記 少年少女古典文学館14』	平岩 弓枝/著	講談社	関東～九州
『過去からの手紙』	岸田 るり子/作	理論社	京都
『幸福ロケット』	山本 幸久/著	ポプラ社	東京都葛飾区
『冬の入江』	マッツ・ヴォール/作 菱木 晃子/訳	徳間書店	ストックホルム
『香港の甘い豆腐』	大島 真寿美/作	理論社	香港
『風をつむぐ少年』	ポール・フライシュマン/ 著 片岡 しのぶ/訳	あすなろ書房	アメリカ各地

他に、外国が舞台の本なら『体験取材！世界の国ぐに』（ポプラ社）のシリーズ、時代小説なら『衣食住にみる日本人の歴史』（あすなろ書房）のシリーズなどを参照して見るのもオススメです。